

令和6年度 学校関係者評価書

学校名 東京学芸大学附属小金井中学校

1 学校関係者による評価

領 域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	<p>①本校の特色のアピール</p> <p>1) 学校説明会など</p> <p>a) オンライン形式による学校説明会は、今後も益々重要になると思う。</p> <p>*オンライン形式による学校説明会は、コロナ禍時の参加者同士の接触を回避するためということから、受験生保護者の時間的な制約に合わせつつ、オンラインというツールを利用し本校の情報や魅力を積極的に発信するという方向に変わって来ていると思う。今後、受験生の両親が共に仕事に就くことが一層常態化していくことやオンライン会議という形式に慣れた保護者が多くなって来ていることを勘案すると、オンライン形式による学校説明会や学校情報の発信は、受験生保護者の心を掴み他の受験校との競争に競り勝っていくために、益々増えると思う。</p> <p>*オンラインでも説明会の回数が多いと、説明会を受けやすないと感じる。志望校を決める時期は、説明会の日程が重なってしまい、日程調整に悩むが、多くの機会が設定されていると、説明会参加人数の増加が見込まれると思う。</p> <p>b) 生徒会役員等の在校生が参加する学校説明会も引き続き継続して欲しい。</p> <p>*例年と同じコメントとなるが、この受験生保護者向け説明会において、在校生には、小金井中の際立った特色、即ち、</p> <ul style="list-style-type: none">・小金井中に入学後、先生方からの教育を受けて自分たちはどのように変わったか、どのような点で成長したのか、小金井中の教育の特徴は何か・自分たちの将来の目標は小金井中においてどの程度培われたのか・様々なイベントで培われた小金井中の交友関係についての特色 <p>等を、自分たちの言葉で、学校説明会に参加した受験生保護者向けに率直に紹介・説明してもらいたいと思う。我が子の将来を思う受験生保護者にとっては、在校生が小金井中の特色や自分たちが成長した軌跡を自分たちの言葉で説明する方が、余程インパクトがあると思っている。</p> <p>c) サピックスの保護者対象オンライン説明会は引き続き継続して欲しい。</p> <p>*受験塾サピックスの保護者対象オンライン説明会が今年も開催され、約50分にわたって小金井中の魅力を広く一般の入学希望者に伝えたことは、大変良かったと思う。</p> <p>*最近は都立高校が中高一貫教育校として中学校を併設するなど、中学受験を取り巻く環境はかつてに比較して多様化していると思われるが、サピックスの保護者対象オンライン説明会は今後も引き続き継続し、他校の動きをも見据えながら、本校の特色的発信に努めていただきたい。</p> <p>d) 学校ホームページ</p> <p>*来年度に学校ホームページを更新する予定との説明を受けた。受験生保護者の心を掴むには、どのような内容をどのような形式や媒体で盛り込めば良いか等の戦略的視点をも反映させつつ、本校執行部の強力なリーダーシップのもと、魅力的な学校ホームページを実現していっていただきたいと思う。</p>

学校運営	<ul style="list-style-type: none"> *パソコンあるいはスマホ経由で学校ホームページから情報収集したり、必要な書類をダウンロードしたりすることが世の中のスタンダードになって来ている現状を踏まえれば、学校ホームページの充実は受験生保護者や在校生保護者の利便性向上を図り、小金井中の競争力を維持・強化するためには不可欠である。殆どの保護者は、スマホ経由でホームページを見ていると思われる所以、昨今の他校の状況やオンライン環境の進展に併せ、ホームページの適時適切な改訂やLINE等を含めた情報発信がなされていることは、大変良いことと思う。 *ホームページからの情報発信が充実していると「学校の対応が丁寧だ」という印象が生まれる。 *ホームページの作成並びに更新を担当する先生の負担は大きいと思うが、引き続き、ユーザーの目線を踏まえたホームページのレベルアップ、他校と比較して遜色の無いホームページの作成・改訂を継続していただきたい。 <p>②新型コロナウイルス感染症への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> *令和6年4月の入学式と令和7年3月の卒業式は、規模を縮小して実施した（する）とのことだったが、それ以外の宿泊行事並びに学校行事をコロナ禍以前の通常の日数で実施できたこと、スポーツフェスティバルや学芸発表会では、それぞれ試合数を増やしたり、発表・見学時間を増やす等の制限緩和を行ったりして実施した、との説明を受けた。コロナ禍の負の影響がほぼ解消され、以前のように学校行事が滞りなく実施できるようになり、本当に良かったと思う。 *感染防止に向けての取り組みとして、引き続き「3密の回避」「マスクの着用」「手洗い・うがいの励行」「消毒作業の徹底」など基本的な取り組みを確実に行つた、との説明をいただいた。コロナ禍対策に向けた先生方のご苦労が報われ、ようやく正常に戻りつつあることが理解できた。 *引き続き、学校関係者皆様の健康促進と健康維持に努め、安心安全な学校生活が担保できることを期待している。 *コロナも明けて修学旅行などの行事が実施できたことは喜ばしく、事前学習も含め生徒の学習意欲を伸ばす良い機会であったと感じる。 <p>③入学選抜</p> <ul style="list-style-type: none"> *「附属小学校からの連絡進学」と「一般選抜（2月3日）」の2項目について、ご説明いただいた対応・内容を理解した。附属小金井小並びに附属大泉小からの進学者が昨年に比べ減少したことに加え（それぞれ12名、7名の減少）、一般選抜の受験者が昨年に比べ30名減少したことが大きく響き、合格者を増やしたにもかかわらず入学手続き者が男女ともに大きく減り、結果的に入学生徒数が初めて定員を下回ったことは、誠に残念な結果であったと思う。 *昨年度に比べ応募者が合計で52名減少したことが定員未達の大きな理由とは思うが、勝手に想像するに、小金井中が、近隣の中央大学附属中学、早稲田実業学校中等部や都立武蔵高等学校附属中学校のように、今流行の中高一貫校ではないこと（附属高校進学には入学試験を受ける必要があり、保護者にとって受験準備の費用が嵩む）や、附属世田谷中や附属竹早中に比べ附属
------	---

学校運営	<p>高校への進学者が相対的に少なく推移していることが影響しているのかもしれない。また小金井中の在校生の質が二極化しつつあるのかもしれない。いずれにしても、本来小金井中に多く進学するはずの附属小金井小からの応募者が何故減少しているのかを含め、原因を分析し有効な対策を講じていただきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> *一般入試の面接検査を再開すると、「どのような子か」を少しでも見ことができるので、よろしいかと思う。 *一般選抜試験で優秀な生徒を獲得するためには、SAPIX 等の受験塾主催の説明会や小金井中独自の（対面形式あるいはオンライン形式による）説明会を今後も継続して開催し、小金井中の魅力を一般の入学希望者に伝えていくことが非常に重要と思う。 *附属小学校からの進学者を増やす施策としては、先輩生徒の協力を得て、コミュニケーションをとる機会をこまめに増やすことで促進されていくのでは感じる。 *「受験の回数を減らしたい」と保護者は思うだろう。保護者にとっては、「中高一貫」の方が楽だと思う。 *小金井中の生徒の特色は「自分たちで調べができる」ことである。チャットG P Tで情報は得られる。それをもとにして、生徒たちが考えることができるといい。「飛びぬける生徒がいる」ことがP Rできるといい。 *「小金井中学校を選んで来ている」ことは、公立校では実現できないことであり、良いことである。 *中学生は「ものごとを深く考えること」「自分とは違う考え方がある」ことを知ることが大切である。インターネットで、自分と同じ考え方の人を見つけることはできる。一方、「何に困っているのか」は理解できない。「自分なりの着地点」が見つかるとよい。生徒たちが「研究活動の結果、自分はこう変わった」と発表できるとよい。「生徒の成長が見える」ものをP Rできるとよい。 *小金井中の特色をアピールされる説明会等の回数は、他国立附属中と比較し多いと思った。先生方のご尽力に感謝している。応募者の減少を知り、幾つか思い至ることがあった。微力ではあるが協力させていただきたいと思う。 <p>④施設整備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> *数年来の懸案である体育館の冷暖房装置の新設が、1年後ではあるが、ようやく令和8年度に新しい冷暖房設備が設置される予定となったことは、本当に良かったと思う。 *校舎の冷暖房設備の更新、校舎のエレベーター新設については、引き続き粘り強く東京学芸大学に申請を継続していただきたいと思う。 *同窓会は、令和7年3月1日に発行した同窓会会報第12号で、母校の体育館・教室の空調設備更新を支援すべく、同窓生に寄附をお願いした。同窓生からどの程度の寄附が集まるか分からぬが、同窓生の母校への想いは強いと思うので、たとえ少額でも更新費用の足しになれば良いと思う。 <p>⑤働き方改革・業務軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> *大学支援による部活動指導員制度を活用したり、各教員が勤務時間を意識して日常の仕事に取り組んだりするようになってきている等、本校教員の方々が以前に比べ意識して働き方改革に取り組むようなってきたこと、ICT 機器を活用した業務削減に取り組んでいること等々、本校における働き方改革・
------	---

	<p>業務軽減の推進状況のご説明をいただいた。良い方向だと思う。引き続き、校長・副校長会での検討、教員間の検討を推進し、実施できるところから先生方の業務軽減・負担軽減・業務のIT化推進を進めていただきたいと思う。</p> <p>* PTA活動の「通学ボランティア」ご担当の方たちは、積極的に見守りをしてくださった。今後人数が増えると良いと思う。</p>
教育活動全般	<p>①生徒の安全への対応</p> <p>* 関係各所の力を借りしながら子どもたちの教育に様々な対応をいただいていることに感謝している。</p> <p>* いつの時代も中学生は子どもと大人の境目、親との距離がひらき、子ども同士の関係性にも個人差があって、苦しむ子はずつと苦しく、楽しい子は我関せずと過ごす。「手はかけないけど目はかける」親の対応も変化しなければならないタイミング。そんな中学生という果敢な時期に対応される先生方のご苦労はいかばかりかとお察しする。いつの時代も子どもから大人への過渡期。問題の根底は変わらないと思う。今後とも先生方の力で教育の熱い底力を存分に發揮していただきたい。</p> <p>* 現社会においては、周りとの係わりが薄れてきてているのが現実であると思う。生徒の安全はもちろん、不登校生徒・合理的配慮を必要とする生徒への対応についても地域との連携が重要と認識しているので、継続し協力体制の構築に努めていただければと思う。</p> <p>* 小金井警察署、JR東日本の皆様にご協力を賜りながら安全な中学校生活を送らせていただいていることについて、心より感謝申し上げる。</p> <p>②不登校生徒・合理的配慮を必要とする生徒への対応</p> <p>* スクールカウンセラーの先生のご助言は、たいへん有効だと思う。</p> <p>* 不登校であっても、オンライン授業や少人数で実施するケアを継続してほしい。</p> <p>* 不登校や合理的配慮を必要とする生徒については、昨今認知度も高まっており、対応について様々な議論がある中、学校として試行錯誤をしながらも、ご対応いただいていることはたいへん素晴らしいことだと感じている。皆が多様性を容認する、そんな社会が現実となることをつとに願っている。</p> <p>③GIGAスクール構想</p> <p>* 小金井中は、生徒向け一人一台PC(GIGA機)ではなく、保護者が我が子に買い与えたPCの持込を認めるBYOD(Bring Your Own Device)方式の採用(修理費は保護者負担)を、昨年度より採用しているとのご説明があった。</p> <p>* GIGA機のメンテナンス(ソフトウェア更新、修理費負担等)に先生方が時間を取られるよりも、寧ろ入学時に(その時点での最新の)PCを保護者に購入してもらい、生徒自身にメンテナンスを行ってもらうという方法は、理に適っていると思う。生徒自身が自らPCを使いこなしソフトウェア更新等自分で行うことで、自然とPCやネットワーク関連の知識が生徒自身に蓄積されるからである。</p> <p>* 最近はモバイルPCが一層進化し、ディスプレイ画面が分離できる、その分離されたディスプレイ画面にタッチペンで直接入力・描画できる、などとい</p>

教育活動全般	<p>う PCが主流になりつつある。今後は黒板とプロジェクターを併用した授業、先生の PCとプロジェクター並びに生徒の PCが連動するような授業などが一般的になっていき、生徒が自然と PCの使い方、コンピュータやネットワーク関連の知識を吸収していくようになると思う。</p> <p>* PCの活用には故障がつきものなので、保険が有効である。</p> <p>④キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> * 中学生を実際に職場に派遣し職務を体験させるという所謂「職場体験」を実施することは、中学生を受け入れる事業所の数が限られる上に、生徒を受け入れてもらうための事前の準備、事後のお礼や生徒への指導に（それでも忙しい）先生方の多くの労力が費消されるので、回避すべきであると言い続けてきた私の視点からは、社会の様々な分野で活躍する職業人の方々や大学の先生方を教室に呼んで、生徒が彼らの話を直接聞いたり質問したりするという現在のキャリア教育の方が、理に適っていると思う。 * 重要なことは、中学生の頃から「自分は将来何になりたいのか、それを実現するには今から何をすれば良いのか」を考えさせることである。多くの職業人のお話を伺う機会に恵まれ、将来の自分を考えるきっかけを与えられる方が、生徒自身にとってメリットが大きいと思う。 * キャリア教育は、様々な職種や社会貢献の視点も入れて行ってほしい。 * 職場体験などのカリキュラムにおいて駅実習のご希望があればお声がけいただきたい。見学や会社説明を行うことは可能です。社員の経験にもなるので機会があればぜひお声がけいただきたい。
研究活動	<ul style="list-style-type: none"> * 学校同士の連携と情報共有はとても重要だと思う。目的をもって視察見学して、両方に良い刺激が与えられることで生徒にも還元できるものが実施できたらとても有益である。 * 「学び問い合わせ続ける」生徒の育成を主眼に研究くださっていること、有難く受け止めている。 * 引き続き教育者同士の交流や社会情勢を意識した研究や講義を実施することで、現在から未来を意識した指導力の向上に努めていただきたい。 * 5月18日（土）の授業参観では、限られた時間内に出来るだけ多くの授業を参観させていただいた。一番感じたのは、どの学年・教科においても、生徒に活動させる（調べさせる、考えさせる、そして発表させる）という姿勢が徹底していたことである。 * 公開授業研究会が教科単位で実施できたことは有意義であったと思う。附属校の使命でもある教育研究が継続して行われていくことを願う。
学生の教育・支援活動	<ul style="list-style-type: none"> * 東京学芸大学では、教員になりたい学生が多いと思う。実習期間だけでなく小・中学校に足を運び生徒と交流し今の子どもたちの実情を肌で感じることが信頼される先生になる第一歩のように思う。学校全体で生徒を育てているという姿勢を感じる。 * 大学院生を実習生として受け入れていること、学生の卒業論文や修士論文作成へ応えていらっしゃることは、学生にとり心強い限りと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> *大学のキャンパス内にあることから、教育実地研究の事前事後指導や、学生たちの授業参観などの受入れに、引き続き積極的に取り組んでほしい。 *附属校の重要な役割でもある教師の育成について、教育実地研究が行われ、未来に向けた質の高い教育の裾野が広がっていってほしい。 *学部や大学院との連携を深めて、よりよい指導の形を探し続けていただきたい。 *教育関係者との連携も引き続きお願いしたい。
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> *小金井市を含め他の地域との連携は、最初の一歩が難しいところはあると思うが、引き続き積極的にPRして交流していただきたいと思う。 *近隣の公立学校と連携を深めていることで、公立学校の先生方にとり本校の情報が得られることは貴重な機会とお感じになっていることと思う。御多忙の中、多方面に渡りご尽力くださっていることを知り感謝している。 *F C 東京を含む企業との連携は、これからの中学校設備運営の新しい形だと考えられる。 *先生方の業務負担が過度にならないことが大切なので、可能な範囲での社会貢献活動を継続していただきたい。

2 評価の実施概要

- ・学校関係者委員会委員（学校評議員）の皆様には、通常ならば、次のような機会にご来校いただき、本校の教育活動の参観や施設・設備の見学などを行っていただいている。

学校評議員会、入学式、卒業式、授業参観

今年度は、新型コロナウイルス感染症への対策として、昨年度までに引き続き、学校行事へご出席いただくことができなかった（学校評議員とは別の立場でご出席された方々はおられる）。

- ・学校評議員会については、コロナ禍以降、初めて対面形式で開催した。コロナ禍の期間中は、1年間の報告・説明事項をまとめた資料を学校評議員の皆様へお送りし、皆様からの評価は文書でいただく形式で行ってきた。今年度は、学校の都合により、年度末の2月での開催となった。

3 学校関係者委員会委員、開催日

1) 委員（五十音順）

- 荒井 耕一郎 様（本校同窓会 理事長）
 桑原 雅美 様（東日本旅客鉄道会社 八王子支社 武藏小金井駅長）
 瀧山 美恵 様（警視庁小金井警察署 生活安全課長）
 渡邊 由希子 様（本校保護者と教師の会 会長）

2) 開催日

- ・令和7年2月18日（火）